

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	千村 百合
論文担当者	主査 島 正之
	副査 小柴 賢洋
	副査 小山 英則
学位論文名	Proneness to high blood lipid- related indices in female smokers (女性喫煙者における血中脂質関連指数の高値傾向)
論文審査の結果の要旨	
<p>喫煙は動脈硬化性疾患の危険因子であり、脂質異常症を誘発することが知られている。喫煙率の低い日本人女性における動脈硬化性疾患のリスクを評価するため、脂質関連指数である LDL コレステロール/HDL コレステロール比 (LDL-C/HDL-C 比)、中性脂肪/HDL コレステロール比 (TG/HDL-C 比)、lipid accumulation product (LAP)、cardiometabolic index (CMI) を用いて、飲酒状態の層別化を行った上で喫煙との関係を分析した。</p> <p>35～70 歳の日本人女性 18,793 名を対象とした企業健診の結果を用いて、LDL-C/HDL-C 比、TG/HDL-C 比、LAP、CMI およびこれら指数の成分である各変数（腹囲、腹囲/身長比、TG、LDL-C、HDL-C）の平均値を喫煙群と非喫煙群で比較した。各変数の高値を示す者の割合の比較には、年齢、飲酒量、運動習慣を調整した多変量解析を用いた。</p> <p>飲酒の有無に関わらず、喫煙群では非喫煙群に比べて TG 高値、HDL-C 低値の割合が有意に高かった。高 LDL-C の割合は、非飲酒喫煙者が非飲酒非喫煙者に比べて有意に高かったが、飲酒者では喫煙者と非喫煙者で有意差はなく、喫煙と LDL-C との関係に飲酒が交絡することが明らかになった。脂質関連指数に関する多変量ロジスティック回帰分析では、LDL-C/HDL-C 比、TG/HDL-C 比、LAP、CMI の各高値の非喫煙者に対する喫煙者のオッズ比は有意に高かった。飲酒状態を層別化した分析では、脂質関連指数は飲酒の有無に関わらず喫煙者で高値であった。喫煙者のほとんどは 1 日喫煙本数が 20 本以下であり、こうした軽度の喫煙によっても血中脂質代謝に影響を及ぼし、動脈硬化の進行を介して心血管疾患のリスクを高めることが示唆された。</p> <p>本研究は、日本人女性を対象に軽度の喫煙でも動脈硬化の危険因子となることを示したものであり、今後の禁煙対策を進める上で有用な知見となることが期待されることから、学位論文に値するものと評価した。</p>	